

2018(H30)シカ年度エゾシカ個体数調整実施結果(遺産地域内)(速報)

<全体>

- ・遺産地域内で合計 217 頭（オス成獣 67 頭、メス成獣 90 頭、0 歳 60 頭）を捕獲。
（確定値：2019 年 6 月 10 日時点）
- ・冬期事業で 191 頭、春期事業で 26 頭を捕獲。

表 5-1-1-1. 2018 (H30) シカ年度の遺産地域内におけるエゾシカ捕獲結果 (確定値)

地区名	時期	手法	捕獲結果(頭)				備考	
			メス1歳以上	比率(%)	オス1歳以上	0歳(メス/オス)		小計
幌別-岩尾別	1-3月	囲いわな(岩尾別大型仕切柵)	0	0.0	13	0	13	
	1-3月	くくりわな(幌別地区)	8	53.3	2	5(2/3)	15	最大稼働数10基、 トラップナイト250日
	1-3月	くくりわな(岩尾別地区)	9	42.9	4	8(5/3)	21	最大稼働数12基、 トラップナイト314日
	1-3月	箱わな(岩尾別地区)	12	36.4	2	19(9/10)	33	6基使用
	1-3月	誘引狙撃(待ち伏せ式)(岩尾別川河口)	17	51.5	9	7(3/4)	33	8回実施
	3月	誘引狙撃(待ち伏せ式)(岩尾別台地)	6	85.7	1	0	7	4回実施
	4月	同上	3	75	0	1(1/0)	4	3回実施
		地区別 小計	55	43.7	31	40(20/20)	126	
ルサー相泊	1-3月	囲いわな(相泊)	2	66.7	1	0	3	
	1-3月	箱わな	0	0.0	5	2(2/0)	7	4基使用
	1-3月	くくりわな	7	21.9	19	6(4/1/被食-不明1)	32	最大稼働数18基、 トラップナイト1056日
	3月	流し猟式SS	11	55.0	5	4(2/2)	20	4回実施
	4月	同上	12	66.7	3	3(3/0)	18	3回実施
		地区別 小計	32	40.0	33	15(11/3/不明1)	80	
知床岬	2月	くくりわな	2	40.0	1	2(0/2)	5	流水期ヘリコプター利用、 3泊4日
	3月	誘引狙撃(待ち伏せ式)	0	0.0	2	0	2	流水期ヘリコプター利用、 1泊2日
	5月	狙撃および忍び猟	1	25.0	0	3(1/2)	4	船利用、1泊2日、3回実施
		地区別 小計	3	27.3	3	5(1/4)	11	
総計						217		

1) 幌別-岩尾別地区 (モニタリングユニット S04)

- ・2018 シカ年度は計 **126 頭**（オス成獣 31 頭、メス成獣 55 頭、0 歳 40 頭）を捕獲。
- ・2011 (H23) シカ年度の個体数調整開始から 8 シーズンの累計捕獲数は 1,566 頭（うちメス成獣 848 頭；54.2%）。
- ・2018 (H30) シカ年度実行計画目標値（約 125 頭） vs 捕獲実績（126 頭） → * 達成

- ・第3期管理計画目標（エゾシカ生息密度）：S04の一部（約29.1 km²）の航空カウント発見密度が5頭/km²以下 vs 約4.5頭/km²（2019年2-3月）→ ***達成**
- ・第3期管理計画目標（植生指標）：段階1～2（1に近い）

1-1) 課題

- ・シカの警戒心が更に上昇しており、従来の手法による捕獲は困難になりつつある。
- ・くくりわなによる捕獲効率は7年前に幌別地区で実施された時と同水準であった。経年的に捕獲圧がかかっている地区でも、一定の成果が得られた。
- ・幌別地区を含むユニット06の海岸線周辺の自然草原で65頭のシカが確認されたが、わなを設置するには移動距離が長く、毎日の点検やシカの搬出にかかる労力が非常に大きい。

1-2) 手法別達成状況

岩尾別

- ・くくりわな（1シーズン目/実績21頭）：捕獲目標（岩尾別-幌別計で35頭）vs 実績（岩尾別-幌別計で36頭）→ ***達成**
- ・岩尾別大型仕切柵（6シーズン目）：捕獲目標（5頭）vs 実績（13頭）→ ***達成**
- ・岩尾別川河口流し猟式シャープシューティング（SS）（6シーズン目）：捕獲目標（20頭）vs 実績（33頭）→ ***達成**
- ・岩尾別台地誘引狙撃（3シーズン目）：捕獲目標（5頭）vs 実績（11頭）→ ***達成**

幌別

- ・幌別箱わな（3シーズン目）：捕獲目標（50頭）vs 実績（33頭）
- ・くくりわな（7年ぶり2シーズン目/実績15頭）：捕獲目標（岩尾別-幌別計で35頭）vs 実績（岩尾別-幌別計で36頭）→ ***達成**

2) ルサー相泊地区（モニタリングユニット R13）

- ・2018シカ年度は計**80頭**（オス成獣33頭、メス成獣32頭、0歳15頭）を捕獲。
- ・2009（H21）シカ年度の個体数調整開始から10シーズンの累計捕獲数は881頭（うちメス成獣442頭；50.2%）。
- ・2018（H30）シカ年度実行計画目標値（約75頭） vs 捕獲実績（80頭）→ ***達成**

- ・第3期管理計画目標（エゾシカ生息密度）：R13の一部（約24.7 km²）の航空カウント発見密度が5頭/km²以下 vs 約3.1頭/km²（2019年2-3月）→ ***達成**
- ・第3期管理計画目標（植生指標）：段階1～2（1に近い）

2-1) 課題

- ・くくりわなによる捕獲効率は昨年度から低下していないため、囲いわなや箱わなよりも、捕獲効率を維持できている。
- ・高標高帯にいる、わなに誘引できないシカの捕獲。
- ・2015シカ年度以来3年ぶりの再開となった流し猟式SSでは、38頭（内メス23頭、60.5%）の捕獲があった。

2-2) 手法別達成状況

- ・相泊囲いわな（4シーズン目）：捕獲目標（約8頭）vs 実績（3頭）
- ・箱わな（2シーズン目/実績7頭）、くくりわな（3シーズン目/実績32頭）：捕獲目標（箱・くくり計で約30頭）vs 実績（箱・くくり計39頭）→ ***達成**
- ・流し猟式SS（3年ぶり6シーズン目）：捕獲目標（約30頭）vs 実績（38頭）→ ***達成**

3) 知床岬地区（モニタリングユニットM00）

- ・2018シカ年度は計11頭（オス成獣3頭、メス成獣3頭、0歳5頭）を捕獲。
- ・2007（H19）シカ年度の個体数調整開始から12シーズン目で累計捕獲数869頭（うちメス成獣465頭；53.5%）。
- ・くくりわなは1シーズン目。
- ・2018（H30）シカ年度実行計画目標値（約20頭）vs 捕獲実績（11頭）
- ・第3期管理計画目標（エゾシカ生息密度）：M00（約3.2 km²）の航空カウント発見密度が5～10頭/km²以下 vs 約22.9頭/km²（2019年3月）
- ・第3期管理計画目標（植生指標）：段階2～3（全体にまだ2に近い）

3-1) 課題

- ・2019年2月26日に実施された航空カウント調査では、先端部の海食台地上草原を中心とするエリアで56頭のシカが発見された。
- ・シカを誘引するためにデントコーンサイレージを使用したのが、餌として認識されなかった。新たな食物資源として認識して誘引されるまで日数が足りなかった

可能性がある。

- ・くくりわなでメス2頭の捕獲があり、想定通りであった。
- ・メス成獣を今以上に捕獲するには、ヒグマが冬ごもりを始める12月において流氷が来る前の限られた期間に、船舶で知床岬へ移動し、くくりわなによる捕獲を実施する方法が考えられる。

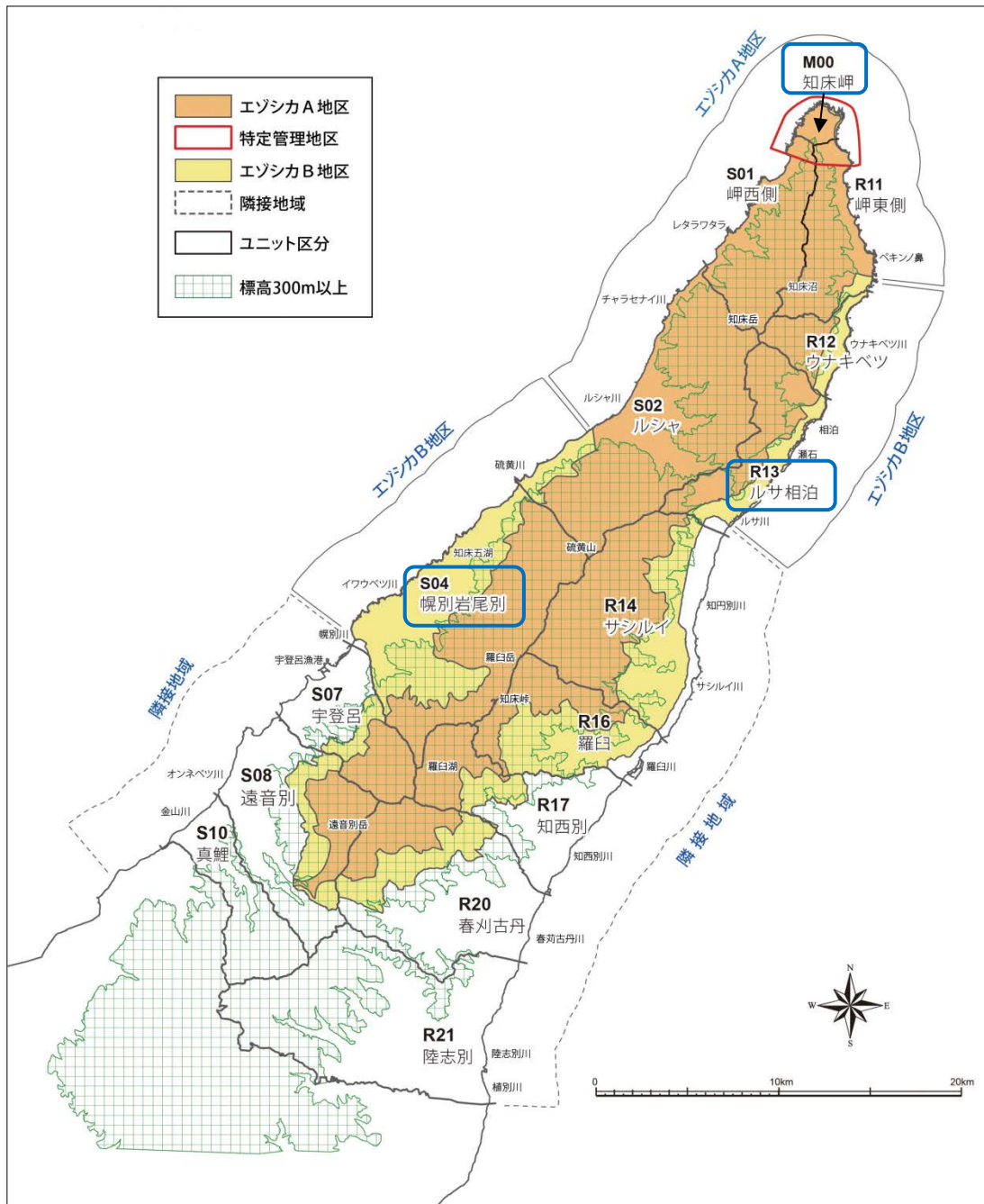


図 5-1-1-1. 知床半島エゾシカ管理計画に係るモニタリングユニット図.

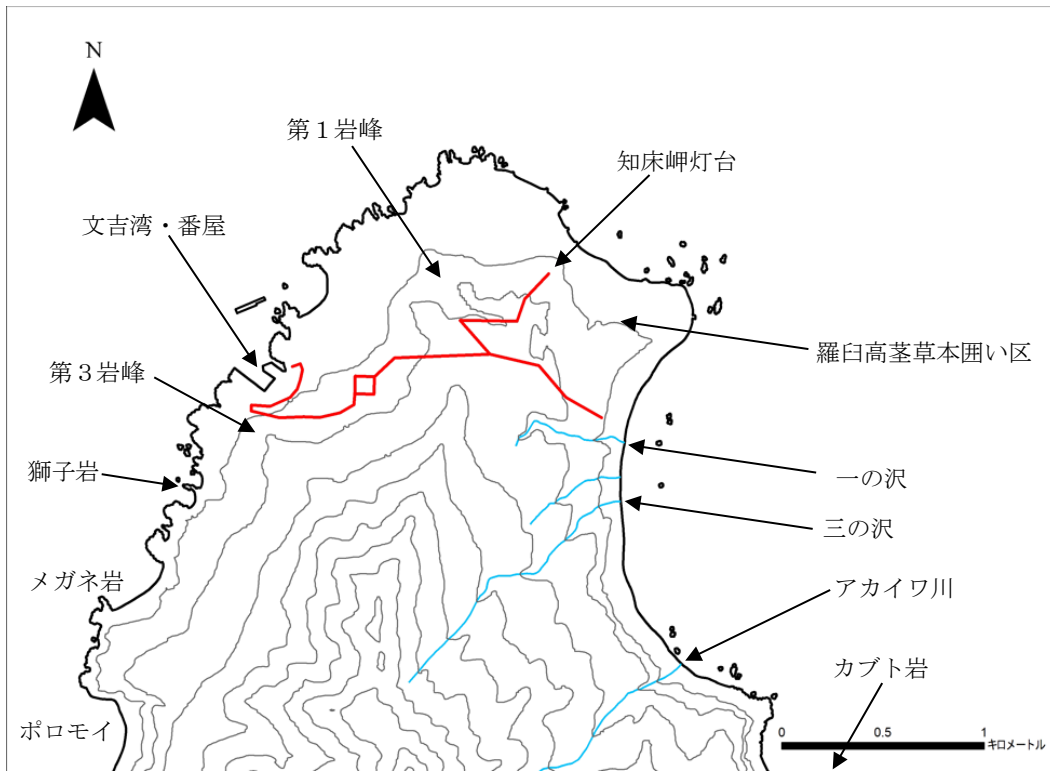


図 5-1-1-2. 知床岬先端部の地図 (赤線が捕獲補助用の仕切柵).